

山本病院

住所	八尾市天王寺屋6丁目59番地	電話	072-949-5181
病床数	513床	病棟数	9病棟

人権センターニュース No.81 より

オンブズマン活動報告

平成 18 年 11 月 29 日訪問

病院全体

病院側の説明 新館は 2006 年に完成。3～9 階が病棟。北館は老人性認知症患者治療病棟が 2 病棟。入院患者は、東大阪市・八尾市・柏原市・平野区で約 8 割、他の地域からの入院では関西医大からの紹介者が多くいる。外来患者数が多いのは、駅に近く、新築である事が理由だと思う。

在院日数が平均より長いことについての改善策は、家族教室（月 1 回）を開いている。面会にきた家族とは必ずコンタクトをとり、情報交換や退院に向けての働きかけを行っている。月に 2～3 回、病棟の患者が病院の隣にある地域生活支援センターに食事に行く「まんぷくや」を実施している。平成 17 年度からは継続的に地域施設との交流会、連絡会を開くなど、退院促進に努力している。来月（平成 18 年 12 月）には地域の施設との交流会（2 回目）がある。病院からは入院患者、看護師、ケースワーカーが参加し、地域の 4 施設から利用者、職員が参加する。

高齢者については残存能力の維持に努めている。ハード面の改善（病室内にトイレを設置）でオムツが取れたケースがある。

預り金事務管理費は 1 日 90 円。自己管理に向けてのサポートも行っている。OT プログラムは個別対応している。ワープロ、革細工、編み物、折り紙、塗り絵、ピースなどの創作活動、ストレッチ、コーラスなど多様であり、楽しみの発見に努めている。あらゆる形で職員研修を実施している。

病棟の様子（訪問した新館 3～8F） 部屋ごとのルームナンバーが大きく表示されて判りやすく、廊下も広く、淡配色で柔らかな雰囲気を感じた。民家に接している方向の窓は下半分が曇りガラスだった。曇りガラスの上の部分は空や山が見えた。窓には普通のカーテンと、レースカーテンもついていた。

中央にエレベーター、詰所、診察室があった。隔離室のある病棟では隔離室の患者のためのデイコーナーがあった。

【病室】ほとんどの部屋は 4 人部屋。名札は室内に掲示され、廊下から見えなかった。出入口の引き戸は片側 20cm ぐらいガラスがはめ込まれ、閉めた状態で内部が少し見える。ベッドサイドにはカーテンがあり、開けている人も閉じている人もいた。大きなロッカーは鍵のかかる引き出しが 1 ヶ所あり、各自で鍵を所持している。利用料は無料。ナースコールがベッドの上部にあった。ふとんカバーは花柄でベッドや床頭台は木目調だった。各室に大きな鏡のついた洗面台があった。

【トイレ】病室内や病室の間ごとにあった。ナースコールもあった。全体的に清潔に使われていた。

【隔離室】洗面とドア付きの便所があるタイプと、洋式便器の周りに囲いがあるだけのタイプがあった。ベッドから便器は見えない。鉄扉の窓とトイレ横の小窓には、外側にロールカーテンがついていた。トイレトペーパーは隔離室の外側にロールがあり、紙の先が室内に垂らしてあった。水洗やエアコンは外側から操作する。外に面する窓は大きく、大変明るかった。ブラインドで光を調整できる。モニターカメラと集音マイク（詰所との会話ができる）がある。病院側の説明「用のあるときは、扉をたたいてもらうか持ち運べるナースコールを設置している」。

隔離室の患者専用のユニットバス、電話、デイコーナーにはソファ、テーブルセット、ロッカー、時計があり、「静養を必要とする患者の為に隔離ゾーン」「状態に応じて自分の荷物を室内に入れたり、デイコー

ナーで食事をとることができる」との説明。

【デイルーム】木製のテーブルがあり、奥が窓になっていて、商店街が見え、明るく開放的だった。テレビ、自販機、給茶機があり、畳スペース横が喫煙室だった。

【電話】廊下の壁がコの字型に凹んだところにあり、ドアもついていた。独立感があり、権利擁護機関の電話番号の掲示物はラミネートされていた。コーナー内に椅子のある病棟もあったが、椅子がなくて患者がしゃがみこんで電話を掛けている病棟もあった。

【その他】面会室はテーブル2セット。つい立て仕切っていた。退院促進事業のパンフレットや家族教室の案内があった。意見箱は「理事長直轄の審議会で検討し、病棟・外来に回答を掲示する」との説明。薬について詳しい患者が複数いた。病院側の説明「服薬管理のための学習会で学ばれたから」。

新館3F (急性期治療病棟 男女 閉鎖)

病院側の説明 処遇(閉鎖・同伴外出・院内単独外出・外出自由)を色で示すボードがあった。任意入院で閉鎖処遇の患者は42名。衣料リースは月額8000円で衣類からタオルまでレンタルしており、便利だと言われている。

病棟の様子 4人部屋が中心で、個室5室(5000円/1日、10000円/1日)、隔離室7室。

【浴室】シャワー6、浴槽大小各1、暖房用のエアコンが3台。看護師の説明「冬場には浴室を暖めてから入浴する。入浴日は週2回だが、入浴日以外でも状況により小さな浴槽で個別対応している。車椅子のままでも、身体状況にかかわらず入浴はできる。無料のシャンプー、石鹸があった。使われていないときの脱衣所はきちんと片付けてあった。

患者の声「旧棟は古く汚かった、今は快適です。ロッカーは大きく収納しやすく便利です。鍵がかかる引き出しがあってここに大事なものを入れている」「看護師の対応も丁寧で親切です。食事もまあまあ美味しい。朝は8時10分から夕は5時40分から」「ヘルパーさんが平日は毎日お掃除をしてくれて、綺麗だし、布団カバーも花柄で色がついている。薬も薬局でちゃんと説明してくれる、説明書も貰った」「ベッドの上の天井に小さい夜間照明灯があって便利です」「風呂が週に2回なので増やして欲しい」

新館4F (療養病棟 男女 閉鎖 60床)

病院側の説明 平均年齢50代。任意入院30名、医療保護入院27名。院内外出3名、院外外出6名。在院日数はあまり長くないが長くなると上の階へ上がる。金銭自己管理は10名くらい。他の患者は伝票での購入。電話、洗濯、飲料代は詰所に声掛けしお金をもらう。決まった時間になると売店の人が品物をデイルームのテーブルに並べる。院内外への外出ができない人はそこでおやつを購入する。スタッフが列を作るよう指導したことはないが、自然と順番を待つための列ができる。同じ時間に家族が差し入れたおやつも受け取れる。おやつの時間と食べる場所はデイルームと決まっている。

病棟の様子 デイルームで過ごしている患者は15~20人くらい。採光がよく、明るかった。パジャマの人もいたが、トレーナーのような衣類を着ている人が多かった。詰所は鍵がかかっていた。

患者の話「退院したい」「入院して5年。病院が新しくなってよかった。自分の入院治療計画書を見たことがある。主治医はよく話を聞いてくれる。昨日初めて外へ出た(病院敷地内)2~3人一緒に出た。お金は盗られるから持たないほうが良いと思う。売店まで行くのはグループ行動でないと許してくれない」「担当看護師は知らない。いるのか?薬はベッドまで運んでくれる。風呂は火金曜に入る。(処置時シャワー使用)ちょうど良い」「主治医をかえて欲しい。現在は男性だが女性の医師にかえて欲しい」(女性患者)「5年入院している。医師はよく話を聞いてくれる。外出はグループで院内敷地のみ可。診察は週1回。特に不満はない」

新館5F (療養病棟 男女 閉鎖 60床)

病院側の説明 慢性期で長期療養の患者が多い。任意入院33名、医療保護入院26名。開放処遇は6名。1人で出かけられない場合は患者5~6名にスタッフ5~6名がついて外出する。患者が年齢を重ね、自立度が落ち、介助が必要な患者が増えている。

病棟の様子 廊下は幅広く、レースのカーテン越しに陽が差し込んでいた。床、壁もきれい。ダイルールのテーブルは2列に配置されており、男女に分かれて座っていた。テレビは数人しかみていない様子で、ほとんどの患者はおやつ販売の順番待ちのため座っているようだった。しばらくして売店の販売が来ると、ダイルームは急ににぎやかになり、男性側と女性側に分かれて詰所に近い席から順番に買物をしていた。窓に向かって座れる机と椅子があり、外を見ている患者がいた。

患者の声 (複数の患者)「もうすぐ売店がくる。楽しみ」「(建て直して)病院がとてもきれいになってよかった」「医師はよく話をきいてくれる」

新館 6F (療養病棟 男女 開放)

病院側の説明 開放時間は午前6時半～午後7時半。詰所カウンターに置かれたノートに記入して外出する。10年以上入院され社会的入院と言える患者が多く、地域移行に努力している。

病棟の様子 患者が詰所のカウンターの前を通り、エレベーターで外へ自由に出入りしていた。ダイルームでは窓際でおしゃべりをしている患者、看護助手とゲームをしている患者、テレビを見ている患者、椅子で寝ている患者と様々だった。冷蔵庫があり、各自のペットボトルを自由に出し入れできるようだった。午後3時半よりおやつ時間とのことで、10人ぐらいの患者が集まっていて、看護師がビニール袋に入ったお菓子や果物を配っていた。掲示板のチラシについて、1人の患者が「支援センターの行事に参加している、楽しみです」と話された。

3Fに比べると患者の年齢が高いと思われた。「状況にあった個別の対応をするには6:1(看護師の配置)ではしんどいし、十分ではない」と看護師の説明があった。機能的で、静かな印象を受け、患者もゆったり過ごしているという印象だった。

新館 7F (療養病棟 男女 開放)

病院側の説明 平均年齢約70歳(40歳くらい～90歳代)。外出は院内なら詰所に声をかけ、院外へ行くときは届けを書いてもらう。10人は院外外出可。他の人も届けを出して外出可能だが、年齢が高くあまり行きたがらない人が多い。金銭自己管理9名。おむつ使用は数名いるが、終日おむつにならないように声掛けでトイレに誘導している。

病棟の様子 詰所は施錠していなかった。患者の権利宣言、まんぷく亭の掲示、八尾市の精神障害者福祉医療サービスを広く知ってもらう会のパンフがあった。

患者の声「40年入院している。単独で院外も行ける。特に不満はない」

新館 8F (合併症 男女 閉鎖 60床)

病院側の説明 この病院の入院患者が、他病院で手術をし、帰ってきたときにこの病棟で受け入れるということが多い。他科の病院は精神科の患者を早く退院させようとする傾向があるように感じている。

自由に出てスーパーなどに買物に行く患者もいれば、「1人で出るのは怖い」と、単独で外出しない患者もいる。第1土曜日に患者5～6名と職員でスーパーに買物に行っている。金銭の自己管理は5～6名。週2回、売店から病棟に販売に来る。薬の自己管理は1名。木曜日に病棟OT、金曜日にコーラスがある。個人OTに参加する患者もいる。

検討事項

【外出について】外出について売店利用など毎週決まった曜日を設けている病棟と、「随時」「希望に応じて」という病棟があった。全体的に院内のみ外出可能な患者が多いようだった。任意入院でも院外に単独で外出できる患者は少ないように感じた。その結果、長期入院患者の多い複数の病棟で「閉鎖度」が高い印象を受けた。売店の病棟への出前販売に行列ができたり、売店の出前販売を患者が大きな楽しみとして心待ちにしていることに驚いた。院外外出や売店への外出は増やせないものだろうか。

【病棟にある地域の情報】病棟内に家族教室の案内や社会資源の情報が置かれているのがよかった。何人

もの患者が見ているようだった。ただ、平成8年のテレホンガイドが置かれているところもあった。できる限り最新のものを提供していくべきではないかと感じた。

【入浴の回数について】衛生面においても、生活上の楽しみという面でも、入浴が週に2回は少ないのではないだろうか。(病院側の回答：夏場は3回、汚染の場合や必要に応じ個室浴やシャワー浴の利用。)

(病院側の追加回答：病院側の説明不足もあり、特に外出制限などは誤解されやすいので今後検討させていただきます。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H18 大阪府精神保健福祉関係資料より (山本病院分)

475名の入院者のうち統合失調症群が315名(66%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が99名(21%)、気分障害が32名(7%)、入院形態は任意入院313名(66%)、医療保護入院161名(34%)、在院期間は1年未満が173名(36%)、1年以上5年未満が119名(25%)、5年以上10年未満が76名(16%)、10年以上20年未満が40名(8%)、20年以上が67名(14%) (H18.6.30時点)